

文化薫道

ぶんか
くんどう

◆其の百二十七

唐草文に込められた願い

食卓で何気なく手に取る器。そこに描かれた文様の中には、江戸時代から親しまれているものもあります。

市内原田の遺跡から見つかった磁器(写真)には、「唐草文」と呼ばれる植物



▲磁器に描かれた唐草文

の文様が描かれています。「繁栄」や「長寿」を意味する縁起の良い文様とされ、初めは写実的だった文様が江戸時代後半頃にはデフォルメ化していくのが特徴です。

唐草文は、現在の佐賀県有田町を中心に生産された磁器に多く用いられました。器の形を選ばずに描けるうえ、文様を繰り返すことで速く効率的に装飾できたため、さまざまな器に描かれるようになったのです。

江戸時代後半頃になると、磁器は藩の政策や国内の需要拡大などによって普及し、唐草文の器は幅広い人々の暮らしの中へ広がっていきました。

江戸時代の戦乱のない安定した社会の中で、人々は平和な日常が続くことを願っていたと考えられます。途切れることなく続く唐草文には、こうした願いが込められていたのかもしれませんが。

この文様は装飾であると同時に、人々のささやかな願いを映した文様といえるでしょう。

文化財課

